

## 「盈進小学校一日遠足町内史跡巡りの取組」

### 1 学校名

さつま町立盈進小学校

### 2 学年・人数

第6学年（計79人）

### 3 日時・場所

#### (1) 事前指導の日時・場所

6月3日（火） 6年生各教室

#### (2) 遠足当日の日時・場所

6月9日（金） さつま町内（虎居・屋地・時吉・轟原）

### 4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

#### (1) 霧島神社

昔、上向にいた宮園氏が、霧島市の霧島神宮に何度もお参りに行き、その霧島神宮の神様の霊をいただいてきて、自分の家の守護神とした。明治時代になり、虎居区の人たちが、宮園家と話し合い、明治8年に曇秀寺跡に神社を建て、虎居区の皆の神社と決め、霧島市の霧島神社の神様が宿る神社として祭った。

#### (2) 楠木神社

祭ってある神様は、武将楠木正成。西郷隆盛が尊敬した人物である。楠木神社の神様が宿る物として、水戸黄門が神戸のお寺にあげた3体の内の一体の木像と言われている。木彫りの像で25cmある。伊集院出身の有馬新七が神戸のお寺の許しを得て、伊集院に持ち帰った。その後、鹿児島神宮に移り、西南戦争の際、宮之城の辺見十太郎が宮之城に避難させた。明治18年、盈進小学校前の湊川神社を建て、そこに木像を置いたが、昭和16年に町民は、今の城之口に神社を移した。

#### (3) 轟之瀬

曾木の滝、神子滝と川内川の三つの滝の一つとして数えられ、変わった形の岩がでこぼこにあり、激流や逆巻きの迫力ある景観を楽しめる。

江戸時代、川内川を利用して税金である米を舟で運べるよう、「のみ」「金づち」で巨大な岩石を切り開く大工事がされた歴史がある。時吉側の新川は、岩を切り開く工事を堀之内良眼房という男にさせた。当時は、今のような機械もなく、岩の上で木を燃やし、真っ赤になってから水を掛けて、岩を砕く方法を使っていた。

#### (4) 穴川橋

江戸時代前より、宮之城から横川、大口方面に通じる重要な中継地点で、川を渡るには川の中の「滑（なめり）」というすべる場所を通らなければならない有名な難所だった。明治3年に初めて、ここに板の橋が架かり、明治

8年に建設費約1,000円で7,000人の男を使って、ここに石橋をかけた。しかし、大正9年東別府佐吉によって、現在の3連石橋に架け替えられた。鶴田ダム建設にともない、重要物や大きな荷物を運搬するために、幅を広げる補強工事をして、現在に至っている。

#### (5) 宗功寺

江戸時代宮之城を支配していた宮之城島津家の墓である。本家である島津貴久の弟である尚久（なおひさ）を初代の宮之城島津家の殿様にし、そこから現代まで家族をふくめて35の墓石がある。

ここには、1,600年頃、2代目の殿様である忠長が「大徳山宗功寺」という名前で寺を建てた。しかし、明治時代に廃仏毀釈があつてからは、この寺は崩された。墓の形は、壮大な形をして、他にあまり見られない形である。台座には、彫刻が彫られ、中国や沖縄の文化を思わせる。

### 5 さつま町文化財ボランティアの方々との連携の具体

国語科「ようこそわたしたちの町へ」の単元で、さつま町のガイドブックを作ることになった。町役場が出している宮之城の将来人口予想を見ると、子供が30才になったとき、人口は今の2/3に減っている。しかも、お年寄りが多くて、若者が少ない。「これはいけない。なんとかしないといけない。さつま町をもっと活性化するために、さつま町のいいところガイドブックを作って、町内外の方にPRをして、さつま町活性化プロジェクトを始めよう。」という目的意識を持たせて、町の史跡等の取材活動を進めることにした。しかし、さつま町のよさと言っても、子供は知っているようであまり知らない。そこで、1日遠足を利用して、子供には実際に校区内にある5つの史跡巡り等を行わせ、取材活動を行わせた。説明看板を見るだけでは内容が難しいので、さつま町文化財ボランティアの方々にそれぞれの史跡の説明を子供たちに分かる言葉で説明していただいた。文化財ボランティアの方（10人程度）には、5つのポイントにそれぞれ立って、子供たちが来るまで待っていただき、子供たちが来たら説明を行うようにしていただいた。

### 6 活用の取組の工夫した点

子供たちがより主体的に活動できるように、各学級6～7名のグループに分かれて、14～15か所ある校区内の自慢できる有名なスポットを自分たちで選び、コースを設定させた。その際、楠木神社、霧島神社、轟の瀬、穴川橋には、必ず立ち寄るようにさせた。この5つの場所に、文化財ボランティアの観光ガイドの方に立っていただき、10分間のガイドを午前中だけでも約3回行っていただくようお願いした。子供たちは、指定された時刻に間に合うように自分たちがそれぞれ立ち寄る場所を決め、コースを設定していった。

文化財ボランティアの方との事前打合せを数回行い、子供たちがより理解しやすいように、10分という時間内に平易な言葉で興味を持てるように説

明する練習を相互で行っていただいたこと。当日はパネルや具体物を用いたり，ハンズフリーマイクを活用したりするなど，より子供たちが理解しやすい工夫がなされた。また，遠足当日の史跡巡りが価値あるものになるように，その史跡に関するある程度の予備知識を与えたり，「～な部分は家で自分で調べておきなさい。」など遠足までの宿題を与えたりなど，文化財ボランティアの方による事前の授業を1時間行っていただいた。

## 7 取組の様子



【轟の瀬における児童の取材活動】



【楠木神社における児童の取材活動】



【事前授業の様子】



【穴川橋における児童の取材活動】

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### 町内ウォークラリー 児童の感想

今回の春の一日遠足を振り返って、僕はグループでの行動で、あまり話したことのない人との絆が深まったと思います。たくさん話をして友達になった人もいたけど、ウォークラリーなどでその場所について調べて、気づいたことをおたがいに言い合ってどんどん絆が深まっていきました。そして、いつもは普通に通っている道の近くも全然知らなかったところがありました。すでに行ったことのある場所や、少しそのところについて知っていても、まだまだ知らなかったことをガイドの方々がくわしく教えてくださって、今と昔のことを自分で想像して比べてみて、どのような様子だったのかなどということを考えてみました。ぼくは、これからさつま町の人として町の昔からあるところについてもっと調べてみたいです。たくさんその場所についての話を聞いたので、いいパンフレットがくれそうです。

### 一日遠足 児童の感想

さつま町の歴史を学ぶために歴史のある史跡や取材をかねて有名な店に行きました。いろいろな神社や穴川橋などにガイドさんがいました。そのガイドさんたちは遠足の一か月前から勉強会をしたり計画を立てたりしてくださったので、いろいろな歴史が学べました。

ぼくたちは最初自分たちで行きたいお店の取材に行きました。次に、楠木神社に行きました。ぼくは、楠木神社は、「なんで楠がないのに、楠木神社というのかな。」と前から思っていました。その事実が今日分かりました。さらに、西南戦争でぎせいになった人たちの霊がねむっていることも分かりました。ガイドさんたちが優しくていねいに教えてくださったので分かりやすかったです。自分たちの町をよく知るといことは大切なことだと感じました。